

V 「かごしま県民大学」推進協議会

1 趣旨

県下全域を生涯学習のキャンパスとする「かごしま県民大学」を推進するため、本県における生涯学習の現状と課題を把握するとともに、課題解決のための方策等を協議する。

2 開催日時

平成26年8月8日(金) 13:30～15:30

3 開催場所

交流センター 視聴覚研修室

4 委員(13人)

平成25年度改選(任期：平成25年7月1日～平成28年6月30日)

○印は、平成26年度推進協議会出席者(10人)

(1) 市町村関係者(2人)

○寺 菌 裕 之(鹿児島市教育委員会生涯学習課長)

○溝 口 省 三(出水市教育委員会教育長)

(2) 大学関係者(3人)

○岩 橋 恵 子(志学館大学生涯学習センター長)

○金 子 満(鹿児島大学教育学部生涯教育総合課程地域社会教育専修准教授)

○菅 沼 俊 彦(放送大学鹿児島学習センター所長)

(3) 民間関係者(5人)

ア 民間教育機関代表

坂 口 猛(南日本新聞開発センター文化教室みんカル社長)

イ NPO代表

○永 山 恵 子(NPO法人地域サポートよしのねぎぼうず理事長)

ウ 主催講座講師代表

高 崎 恵(オフィスピュア, 平成23年度「ふるさとのよさを学び伝える人材育成事業」講師)

エ 主催講座受講者代表

○東 園 千 鶴(平成24年度「生涯学習リーダー育成実践講座」受講者)

○池 増 美 恵 子(平成24年度「メディア研修講座」受講者)

(4) 県関係者(2人)

○濱 田 弥 生(県立垂水高等学校長)

○福 永 徳 郎(県総務部県民生活局生活・文化課長)

(5) 公募(1人)

堀 口 なり子(指宿市, 槌橋保育園長)

5 議長 寺菌 裕之委員(委員による互選)

6 協議のテーマ

「生涯学習の学習成果を適切に評価する方策について」

7 協議の項目

- (1) 人材育成事業における学習成果の活用について
- (2) 学習成果等の展示及び提供について
- (3) 市町村における学習成果を適切に評価する方策について

8 主な意見(抜粋)

(1) 人材育成事業における学習成果の活用について

ア 「ふるさとのよさを学び伝える人材育成事業」について

- ・ 市町村はまちづくりに真剣に取り組んでいるので、本事業で育成した人材や人材情報を市町村と共有することが大切である。
- ・ 本事業での学習成果やその後の活動が広域的に広がるために、情報交換等のネットワークを形成していくことが大切である。
- ・ 講座修了者が、互いに活動報告をする場や、知の連鎖・蓄積に参画できる場を設定していくことが行政の次のステップとして求められる。人材バンク等への登録をベースに、生涯学習やまちづくりに積極的に関わる組織「県民大学サポーターズ(仮称)」を作り、市町村で、事業を共催したり、知恵(学習情報等)を循環させたりするシステムも検討してはどうか。
- ・ 人材バンクだけでなく、人材を活かすコーディネーターも必要だ。コーディネートして地域でその人材を継続的に育てなければ人材は育たない。単独的な講座ではなく継続的に人材をつないでいく講座や、一人の人材を育てるシステムを作ることが大切である。
- ・ 講座修了者から得たアンケート結果(活動情報)を市町村等で情報発信すれば、講座がより認知されて、受講者増、地域活性につながると思う。
- ・ 本事業の最終的な目的は、地域における活動の拡大であると思う。受講者の学習成果が地域で広がっていくことが大切なので、必然的に人との関係作り等で葛藤したり、悩んだりする。それらのノウハウを共有していくことが非常に重要である。

イ 「メディア研修講座」について

- ・ 映像を撮り、表現するという活動は、まちづくりの活動でも非常に有効である。技術をベースに、何を撮り、何を表現するかということに踏み込んで、「ふるさとリーダー育成講座」等とリンクさせてはどうか。
- ・ 若い世代は映像に親和し、技術を持っている。そして、彼らの視点に驚かされることも多い。若者がまちづくりに参画する機会を作り出すためにも、「メディア研修講座」をベースにして、若者向けの「ふるさとリーダー育成講座」を作ることは考えられないか。

(2) 学習成果等の展示及び提供について(生涯学習サロン展示スペースにおける展示の状況)

- ・ 中央センターの事業紹介も積極的に行う必要がある。多くの人に生涯学習作品を見てもらい、さらになる活動につなげていくところに展示の大きな意味がある。
- ・ 展示場所の検討が必要ではないか。県や市町村(自治会館や駅、役所等)の施設に出て行ってPRすることも検討すべきである。
- ・ 社会教育への評価として展示はとても大切である。そして評価するのは、学習主体である地域住民である。展示を通して自分たちがやってきたことを評価し、他の多くの人に見てもらい、さらにいい活動につなげていくところに展示の意味があり、多くの人に見てもらえると向上につながるので、展示を大事な事業として位置づけて、展示場所を含めて検討してもらいたい。

(3) 市町村における学習成果を適切に評価する方策について

- ・ 「ふるさとのよさを学び伝える人材育成事業」のような事業を官だけでやっていた時代から、民の力を活かす方向にシフトしなければならない。みんなでまちをつくるという方向にしていくことが大切である。
- ・ 「ふるさとのよさを学び伝える人材育成事業」の受講修了者が今後広がっていくので楽しみであり、それぞれの地域で行われる活動がどうなっていくか非常に興味がある。引き続き成果を見せていただきたい。
- ・ 新しい人たちが、新しいグループで、まちづくりに取り組んでいくことを認め合う成熟した社会のあり方を、生涯学習の中でも学んでいくべきではないかと思う。だから、生涯学習は永遠に続いていくものだと思う。

平成26年度 かのしまの生涯学習
(かごしま県民大学中央センター事業報告書11)

平成27年4月発行

編集・発行 鹿児島県教育庁 かのしま県民大学中央センター

住所 〒892-0816 鹿児島市山下町14-50(かごしま県民交流センター内)

生涯学習課 学習推進係 TEL 099-221-6604 FAX 099-221-6640

生涯学習課 学習情報係 TEL 099-221-6606 FAX 099-221-6642

E-mail kenmindaigaku@pref.kagoshima.lg.jp(共通)

ホームページアドレス http://www.kagoshima-pac.jp/functions/central_center/